

# 令和2年度 ESD 推進校 実践のまとめ



鶴牧中学校



17 パートナーシップで  
目標を達成しよう



南鶴牧小学校



大松台小学校



## 鶴牧中学校区



## 令和2・3年度 ESD推進校 取組概要



## 1 取組方針

★パートナーシップで SDGs の目標を達成する。

(長期目標)様々なパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。(SDGs の目標 17-17)

(中期目標)地域人材や地域環境資源を活用した学習活動を積極的に推進することにより、児童・生徒がパートナーシップの必要性や多摩市で育つ意義を見出し、未来を築く人材となるよう育成する。

## 2 取組設定の理由

- (1)多摩市鶴牧地域は、ニュータウン計画により開発された住宅地が大部分を占める。様々な人材が居住しており、地域人材とのパートナーシップを得て教育活動を進め、2050 年に向けた児童・生徒の資質・能力の向上と態度の育成を図る。
- (2)乞田川を源流とした平安時代からの人々の暮らしも点在する地域である。地域人材や地域環境資源を活用し、郷土の歴史や財産、ニュータウンの今昔、生きる知恵を児童・生徒が学ぶことで、2050 年に向けた児童・生徒の資質・能力の向上と態度の育成を図る。
- (3)児童・生徒が教育活動で得た知見を小・中学校間や地域に発信・交流し、共に未来を考えていくことで、エリア・パートナーシップを構築する。
- (4)学校教育活動を軸にした地域の活性化を図り、2050 年に向けた私たちのよりよい暮らしを創造するために必要な、児童・生徒の資質・能力の向上と態度の育成を図る。

## 3 ESDを通して育成する資質・能力

## 【鶴牧中】

《知識・技能》情報を整理し実生活に生かす力 《意思・態度》課題解決に積極的に関わろうとする態度  
《探究する力》新たな価値を自ら創造する力 《思考力》未来像を予測して考えを深め改善する力

## 【南鶴牧小】

《知識・技能》調査や活動の技能 《意思・態度》合意形成し協力・協働する態度  
《探究する力》課題発見・解決能力 《思考力》論理的な思考力

## 【大松台小】

《知識・技能》情報を取得し活用する能力 《意思・態度》多様性を尊重し共生する態度  
《探究する力》地域や社会の活動に参加する力 《思考力》批判的な思考力

## 4 実践のポイント

## 【鶴牧中】

・自助・共助についての理解を深めたり、考えを発信する力を高めたりするとともに、災害発生時には、自らの安全を確保する能力や地域の一員として主体的・積極的に行動しようとする態度を、地域と共に育てる。

## 【南鶴牧小】

・持続可能な社会の創造に向け、地域とともに一人一人が実践できることを計画し継続する。  
・環境資源、地域人材、人材資源との「かかわり」や「つながり」を通して多様な探究活動を行う。  
・学んだことを継承するとともに、地域にも発表し、学校全体・地域全体で学びを深める。

## 【大松台小】

・地域の自然・街・環境問題・郷土の歴史を理解しよりよい未来や社会のためにできることを考える。  
・地域人材や地域資源を活用し、児童が探究的な見方・考え方を深める学習活動に取り組む。

1 単元名(教科・領域)・学年

災害への関心をもち、災害時の自助と共助について考える(総合的な学習の時間) 第1学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

■ 地域や社会に関心をもち、主体的・積極的に関わり、課題の解決に取り組もうとする態度

3 単元目標

災害発生時における行動を想定するとともに適切に判断し、自助・共助の意識をもち、行動しようとする態度や実践的行動力を育てる。

4 単元計画の概要【全12時間】

(1) 災害時に命を守る行動について考える。

- ・「防災ノート～災害と安全～」を活用して災害に関する基本的な内容を学習する。



(2) 「東京マイ・タイムライン」を活用して考える。

- ・「東京マイ・タイムライン」等を活用した震災に関する学習を通して、発災時における自らの行動についての理解を深める。



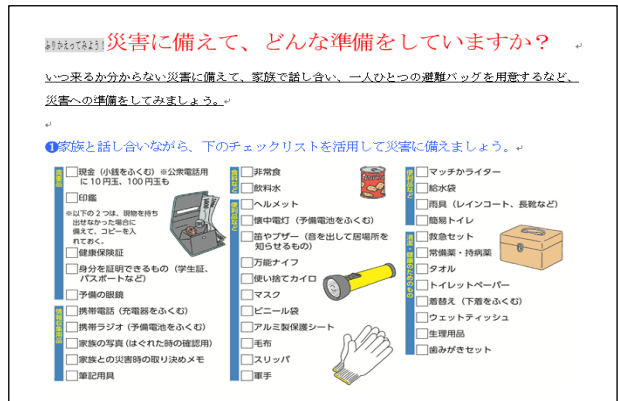
(3) 防災デイキャンプを通して考える。

- ・日本赤十字社と連携した防災デイキャンプを通して、災害時における対応を学習する。



(4) 震災時における行動について考える。

- ・本単元において学習してきた内容とともに安全指導や避難訓練、教科における関連する内容等を総合的にまとめ、考える。



5 授業の紹介【発災時に何ができるかを考える 第8・9時】

(1) 本時の目標

- ア 日本赤十字社によるオンライン講話を聞き、発災時における自助・共助について考える。
- イ 応急手当の方法や新聞スリッパ作りを通して、実践的行動力を高める。

(2) 授業の展開

導入

災害発生時に、どのようなことが起こるのか、予想する。

1

---

展開

①日本赤十字社による講演を通して震災における基本的な事項を理解する。

2

②身近にあるもの（バンダナ等）を活用して、簡単な応急手当を行う。

3

③新聞紙を活用して、ガラス等が飛散した部屋でも移動できるスリッパ作りを行う。

4

---

まとめ

本時において学習した内容を振り返るとともに、発災時における自らの行動をまとめる。

5



1



2



3



4



4

ワークシート「地震から身を守ろう」

年 組 番 名前

おぼえておきなさい！地震が起きた時、考えられる危険は？

地震は、いつどこで起きるか分かりません。どんなところで地震に遭っても、危険を予測し、回避できるように、それぞれの場所で考えられる危険をあげましょう。

次の場所や地震が起きた時に予測される危険と、それを回避する方法を書きましょう。

■学校内（教室、トイレ、体育館、音楽室、理科室など）

|         |      |
|---------|------|
| 予測される危険 | 回避方法 |
|---------|------|

5

6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価（意見・感想等）

- ・私たちの身近にあるものを活用して応急手当を行うことができることが分かったので役に立った。
- ・新聞紙でスリッパを作る体験はとても楽しかった。家に帰ったら、家族にもやり方を教えたい。
- ・タイムラインを考えてみると、災害が起きたときにはいろいろなことが困ることが分かった。家族と相談したり、必要なものを準備したりすることが大切だと思った。
- ・オンラインでの学習の中で、自分たちのグループの考えを投票できたりしたので、とても楽しかった。
- ・実際に災害が発生したときには、自分ができることを見つけて、人の役に立ちたいと思った。

(1) 成果

単元の学習を通して、防災や減災に関する意識を向上させるとともに、自助や共助についての理解を深め、災害発生時においても自ら正しく判断し、行動できる資質や能力を高めることができた。

(2) 課題

避難訓練や安全指導などとも関連付けながら、生徒が引き続き防災に関する意識を高くもち、緊急時においても正しく判断し、行動できる力を育てる必要がある。

1 単元名(教科・領域)・学年

「エコ大作戦」(総合的な学習の時間)第4学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 調査や活動の技能
- 課題発見・解決能力



3 単元の目標

身の周りの環境に関心を持ち、課題を発見して調べたり、エコな活動を行ったりすることを通して、持続可能な社会の実現への意思を持ち、自分たちができることを考えて実践することができるようになる。

4 単元計画の概要【全47時間】

(1)環境問題って何だろう

環境問題についてゲストティーチャーに話を聞き、環境問題に関心をもつ。

- ・地球温暖化 ・ごみ問題 ・食品ロス
- ・生態系、外来種 ・大気汚染 ・放射能汚染



(2) 省エネプログラムに取り組もう [→(4)へ]

家庭で省エネ行動に6週間取り組む。電気、ガス、水道のメーター記録を行ったり、節水実験に取り組んだりする。

[環境省「省エネ教育プログラム」実証実験]



(3)エコ大作戦に取り組もう

一人一人が課題に設定した環境問題について原因や解決方法を調べ、自分たちにできることを考えて、学校や家庭で実践する。



(4)みんなに伝えよう

調べたことや実践したこと、自分の考えを発表する。他学年に向けて、タブレット端末を用いてエコ活動への取り組みのCMを作る。



## 5 授業の紹介【エコ大作戦に取り組もう 第3次】

### (1) 本次の目標

- ア 課題に応じた情報を収集して整理し、関連付けたり多面的に考察したりすることができる。
- イ 課題解決のために自分にできることを計画、実践し、生活を見直すことができる。

### (2) 授業の展開

|                             |  |          |   |          |   |
|-----------------------------|--|----------|---|----------|---|
| <p><b>課題設定</b></p> <p>1</p> | <p>ゲストティーチャーの話をもとに、自分が調べる課題を決める。</p>     | <p>1</p> | <p>ゲストティーチャーの話に基づき自分の関心のある環境問題を選び、課題に設定した。</p> <p>[例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化をなくす方法</li> <li>・海ごみ問題の解決方法</li> </ul> | <p>2</p> | <p>図書資料を中心に、原因や解決方法を調べた。</p> <p>必要に応じて子供向けのホームページを印刷したものも用意して活用した。</p>  |
| <p><b>情報収集</b></p> <p>2</p> | <p>課題について、資料で調べる。調べたことを課題別グループで共有する。</p> | <p>2</p> | <p>調べたことを課題別グループで共有した。エリアチャートを使って情報を整理し、自分たちが取り組めそうなことを明らかにした。</p>  | <p>2</p> | <p>自分にできる活動を考えて1週間取り組んだ。家族にも協力を頼み、記録した。</p> <p>[例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気をなるべく使わない。</li> <li>・ペットボトルを買わない。</li> <li>・地域のごみ拾いをする。</li> </ul> |
| <p><b>計画実践</b></p> <p>3</p> | <p>自分にできることを考えて「エコ大作戦」を計画し、1週間取り組む。</p>  | <p>4</p> | <p>取り組みを振り返り、学級全体で座標軸「簡単」「難しい」、「効果がある」「効果があまりない」で整理した。</p>  | <p>4</p> | <p>社会ではどのように環境問題に取り組んでいるのか、資料を使って調べ、グループで情報を共有した。</p>   |
| <p><b>整理分析</b></p> <p>4</p> | <p>実践したことを視点に沿って分類したり評価したりして振り返る。</p>    | <p>5</p> | <p>自治体や企業の取り組みについて調べ、グループで共有する。</p>   | <p>5</p> |   |

## 6 本単元を通して得られた成果と課題

### □ 児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- 「私一人ならいいじゃない。」と思った人が大勢いて、「こんなことになったのかな」とこの学習をして思いました。小さなことでも続けようと思いました。
- レッドリストには大量の動植物の名前が載っていました。絶滅しそうになる理由のほとんどは人間のせいです。私はみんなにこの問題を重要視してもらい、解決するための行動をしてほしいと思いました。
- 照明をこまめに消す、エアコンをなるべく使わないなど、ちょっとしたことがすごいことになると分かりました。今は、地球のために頑張らないと、と思うようになりました。

### (1) 成果

- ・興味のある課題を調べたり、エコ活動に取り組んだりしたことで、環境問題との距離が縮まり、自分たちにできることを具体的に考えて行動することができた。
- ・環境に関するニュースに注目するなど、環境問題を自分事として考えられるようになった。

### (2) 課題

- ・授業後もエコ活動に取り組む児童はいたが、継続するモチベーションの維持は難しい。

1 単元名(教科・領域)・学年

広げよう!やさしい町

(総合的な学習の時間) 第4学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

■人・社会・自然と自分との「つながり・かかわり」を理解し、それらを多面的・総合的に考える力

3 単元の目標

- (1)身近な高齢者、障害者などに関わりながら、助け合う温かい地域づくりの大切さを理解する。
- (2)いろいろな人にとって、「やさしい町」とは何かを考え、やさしい街づくりに取り組む力を育てる。

4 単元計画の概要【全 25 時間】

(1)つかむ

地域の手話や点字、バリアフリーについて自分の調べたいことについて学習計画を立てる。



(2)追究する

障害のある方や点字サークル、手話サークルの方から話を聞いたり、点字や手話の体験をしたりする。学区内や駅周辺を調査し、高齢者や障害のある方のくらしを支える施設を調査する。



(3)まとめる

高齢者や障害のある方と共に生きるため、自分たちにできることは何かを考え、まとめる。



(4)発信する・行動する

共に生きていくためにはどうすればよいかを文章にまとめたり、理想の未来の町を発表したりしながら行動に移す。



5 授業の紹介【手話体験をしよう 第 17~20 時】

(1) 本時の目標

- ア 手話を使う人はどのような人がいるのかについて図書室の本やタブレットを使って調べる。
- イ 手話体験をして、話をして伝える以外にも言葉を共有することができる方法があることを知る。
- ウ 手話体験を通して分かったことや新たに疑問に思ったことを整理し、更に調べる。

(2) 授業の展開

**導入**

手話について自分の知っていることを整理し、図書室の本やタブレットを使って調べる。 1

**展開**

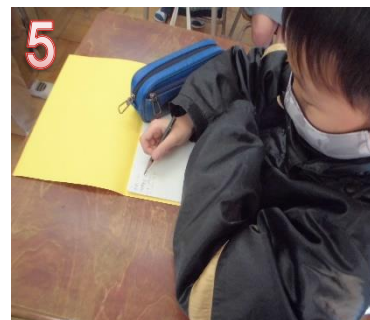
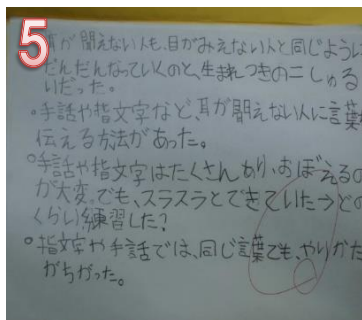
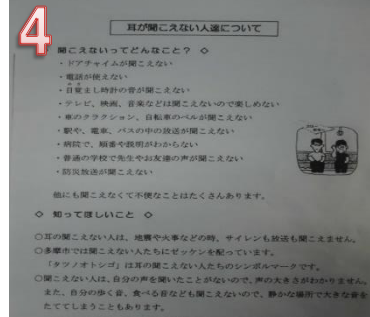
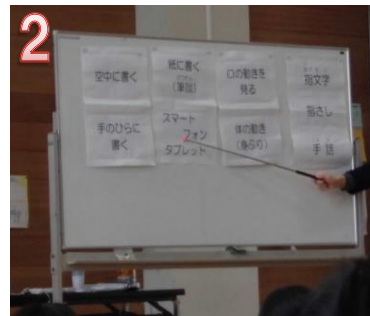
①手話サークルの方の講話により、視覚障害者の普段の生活の様子を理解する。 2

②自分の名字の示し方や簡単な挨拶の方法を理解する。 3

③手話サークルの方にいただいた資料を読み、聴覚障害への理解を深める。 4

**まとめ**

手話体験を通して、分かったことや疑問に思ったことをプリントに書き出す。 5



6 本単元を通して得られた成果と課題

- 障害のある多くの人の話を聞いて、困っている様子を見たら声をかけたりしたいなと思いました。
- 手話体験をして、自分の名前の伝え方を初めて知りました。歴史上の人物から作られているものもあって驚きました。
- 点字を書く時は、右から左に書いていくことが不思議でした。家でもセットを買ってやってみたいです。
- 障害のある人は多くの道具を使って生活をしていることがよく分かりました。

(1) 成果

実際に体験や見学を通して、「住みやすい町」にするためにどうすればよいのかについて自分なりの考えをもつことができるようになった。

(2) 課題

コロナ禍で学習をしたことを発表する相手が少なかった。次年度以降も学習したことを発表する場の設定を考える必要がある。





## ESD推進校の成果と課題

### 1 各学校の成果と課題

#### □鶴牧中学校

##### 【成果】

- 学習テーマに関する情報を取得し、主体的に考え、対話を通して深めるとともに、地域や社会とのつながりを意識し、主体的に関わろうとする態度を育てることができた。
- ICT機器を意図的に活用することにより、教育効果を高めることができた。

##### 【課題】

- 学習の成果を社会の中で実践化させるための継続的なプログラムが構築できていない。
- 地域社会に対して自らの考えを発信したり、改善の提案ができたりする機会が少ない。

#### □南鶴牧小学校

##### 【成果】

- 興味のある課題を調べたり、エコ活動に取り組んだりしたことで、問題との距離が縮まり、自分たちにできることを具体的に考えて行動することができた。
- 環境に関するニュースに注目するなど、環境問題を自分事として考えられるようになった。

##### 【課題】

- 授業後もエコ活動に取り組む子はいたが、意欲を継続することは難しかった。

#### □大松台小学校

##### 【成果】

- 実際に体験や見学を通して、「住みやすい町」にするためにどうすればよいかについて自分なりの考えをもつことができるようになった。
- 学んだことを自分なりにまとめ、発信しようとする姿勢が身に付いた。

##### 【課題】

- コロナ禍で学習をしたことを発表する相手が少なかった。次年度以降も学習したことを発表する場の設定を考える必要がある。
- 体験道具や体験時間の十分な確保が難しかった。



## 2 中学校区の取り組みの成果と課題

### 【成果】

- 中学校区で取り組み目標を定め、ESDの手法を用いて推進していくことで、各校の教育活動及び指導計画の目標が明確となった。
- 中学校区で指導内容や指導事例を共有することで、エリア・パートナーシップの視点をもつことができた。
- 小・中学校9年間の連続した学びを通して、児童・生徒の育成を図ろうとする教員の意識が高まった。

### 【課題】

- 児童・生徒の交流による学習成果発表会等を行うことにより、各校における学習の成果を確認するとともに、課題の改善を図るための指導計画等の見直しを行う必要がある。
- 小中学校が共通して取り組む学習内容を検討し、実践することにより、生徒の到達段階を把握し、課題を明確にして取り組みを充実・深化させていくことが必要である。

## 3 次年度以降の取り組みについて

### ○小中連携したESDの推進

- ・教員の交流会において、指導計画を基にしたESDの実践状況を確認し、協働できる環境資源を共有するとともに、小中学校間の共通する学習内容を模索する。
- ・児童・生徒間において、学習の成果発表を行い、学んだことを地域に広げていくとともに、意見交流によって学びの深化を促す。
- ・評価規準(ルーブリック)を学習活動の評価として活用し、中学校区で達成度を確認する。

### ○SDGsを踏まえたESDの推進

- ・すべての学習活動が、SDGsのどの目標の達成に資するのかを明確にするとともに、最終目標(SDGsの目標17-17)につながるよう、指導計画を改善・充実させていく。
- ・地域・保護者と協働して、SDGsの意義や意味について、あらゆる場を用いて共通理解を図るとともに、参画する機会を増やしていく。

### ○「多摩市子どもみらい会議」の充実

- ・9年間の学びを連続・継続したものにしていくとともに、郷土愛を醸成する活動を積み重ねていく。
- ・中学校区での学びの交流・共有を基に、共に学んでいく意識を高める。